

# いわみざわの民話

## 第31回

「いわみざわの民話は、平成9年に「いわみざわの民話」刊行委員会が発行しました。

### お坊さんと『びわ橋』

円空上人といわれる偉いお坊さんが、当時エゾ地と呼ばれる北海道に連れて、仏教をひろめました。その時にたくさんの仏像をつくってゆかれました。

その頃であったかも知れませんが、一人のお坊さんが石狩川から幌向川へとさかのぼり、今の幌向町のあたりからダルミ川の川岸を上流の方へ僅かな細い道をたどって歩いてゆきました。

あたりは大きな木や熊笹がしげり、太陽の光りもあまり届かないような所もありました。ところどころに小屋があり、人々が僅かな畑を耕していました。しかし、このあたりは毎年、春秋に水害があつて、よい作がとれないのです。お坊さんはそのことを聞いて水害のない村にしようと思つて来たのでした。

お坊さんは、その本流をさけて右の方から流れてる支流の方へ渡って行きました。

いつか日が暮れて暗くなってきました。それでもお坊さんは歩いてゆくのですね。そして、すこし川幅の広くなつた場所になると、そこに木の枝や笹で小さな小屋をつくりました。

背負ってきた包みの中から僅かな食事をすませると一心にお経を唱えました。翌日もお経を唱えていました。それが終わると今度は持ってきた『びわ』を弾き何かの物語をうたいました。

いつか月が出て、あたりがあかるくなつてきました。うたが終わるとお坊さんは、弾いていた『びわ』を川岸に埋めてしまいました。その上に小さな赤ダモの木を植えると小屋を片付けて戻つてゆきました。

その後、何十年か経ちました。お坊さんが植えた赤ダモの木は、高く大きな大木になり、上幌向からも幌

向からもよく見える道しるべの木となりました。

それから不思議なことには、大雨が降るとこの沼に流れて来た水が溜り、丁度お坊さんが埋めた『びわ』のような形の沼になり、いくらでも水が溜まるのです。そして雨が止むと今度は沼から流れ出してゆきますので、この近くの水害はほとんどなくなりました。

人々が幌向と上幌向を往復する時にここを渡りますが、その橋にいつか『びわ橋』と名付けて水害を除いてくれた坊さんの恩を忘れないようにしました。

いつか大きな赤ダモの木は道路を広げるために切り倒されました。橋もいつか架け換えられました。ただ、近くのお年寄りが、秋の月夜にこの橋のたもとにゆくと、お坊さんの弾いた『びわ』の音が聞こえるといっていました。

第32回は「くいちがい道路」を紹介します。

発行・編集 岩見沢市総務部秘書課

#### ひとの動き 平成24年8月31日現在

●住民基本台帳 人口 総数 88,987人(前月比 - 51)  
男 41,730人(前月比 - 30)  
女 47,257人(前月比 - 21)

世帯数 42,604世帯(前月比 - 6)  
住民基本台帳法の改正で、7月から人口、世帯数とも、外国人を含んでいます。

#### 岩見沢市役所

☎068-8686 北海道岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号  
☎0126-23-4111 ㊚0126-23-9977  
ホームページ <http://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp>  
▶救急当番医ガイド ☎0126-23-5153  
▶消防テレホンガイド ☎0126-24-0119